

コロナ感染症学習と交流-岡山センター総会と講演- いのちと健康を守る運動の前進を！

12月18日、働くもののいのちと健康を守る県センター総会にはオンラインも含めて23人が参加。代表委員の清水善朗弁護士が「財務省職員の赤木俊夫さんが改ざん指示で自死した事件で国は、急に訴訟を受け入れる認諾をして幕引きをしている。コロナ禍からいのちと健康を守る運動を今こそ大きくすすめましょう」と挨拶。藤田事務局長が運動方針、財政、役員体制等を提案し確認、承認されました。



県労健康講座医療・介護、学校、自治体、行政などの活動を交流 新型コロナウイルス感染症について-中村賀憲氏が講演

総会前に開かれた県労健康講座では、岡山協立病院の感染制御部師長の中村賀憲氏が「新型コロナウイルスこれからを考える」と題して講演。
 〈講演する中村氏〉

この間の感染状況とその対応に様々な課題がでてきている。感染で買い物に行けない、出勤できない、企業からの圧力、周りの偏見や差別が問題となるなど日常生活への影響、子供の自殺者が増加し、相談ができない、交流ができない、親子の不況和音などが出てくると指摘。ワクチン接種や治療薬の現状、また感染症法で日常生活が規制されることの改

正も必要と指摘しました。第6波に向けて、2Mのソーシャルディスタンス、手指消毒を継続することなどが大切として指摘。新型コロナウイルスに対して、その存在を許容し、できることを継続し、感染の大丈夫なラインを見つけること、未来の子供たちのためにも必要ではないかと話しました。

続いて各団体からコロナ感染症に対するとりくみが報告され交流しました。

○医療・介護関係 風早県民医連事務局次長

医療・介護職場では、既に医師・看護師、介護士が削減され脆弱な体制の中でコロナに必死に対応している。減収補



填、PCR検査の無料・制限無し、飲食業支援などを国会議員、県政にその都度要請した。看

護学校応募が定員割れ急減となっている。政治に直結しており選挙の参加を呼び掛けた。



オンラインで参加された皆さん、会場参加の皆さんの映像

上段左から 【会場発言席】 【会場参加者】 【代表委員 清水弁護士】
 中段左から 【岡山市職労 岡本さん】 【高教組 豊田氏】 【県政みんなの会 須増県議】
 下段左から 【倉敷市職労 景山さん】 【建交労 山田さん】

○看護進学も急減 高教組・豊田佳香書記長

コロナが長引く中、生徒の中で悩み相談が増えているが、男子の相談が多くなっている。教職員は、クラスター発生防止などに神経を使い、教室や廊下等の消毒、生徒の健康状況の把握、地域への感染拡大防止など、さらに長時間労働になっている。県教委交渉で、時間外週45時間以内、そのためにも増員を強く求め続けてきた。進学希望で看護コースが急減している。

国民の医療が担えなくなる危険もある。

○コロナに直面し「命を守る」署名が広がる 岡山市職労 岡本委員長

コロナ感染の対応で自治体の多くの分野で業務が増え、これまでも人員不足の上での対応の中で、厳しさを実感している。月100時間以上残業者が77人から249人（令和2年）、80時間以上が155人から543人と急増。自治労連などが提起した「国民のいのちと健康を守る署名」を3000枚、地域にも配布し署名はこれまでにない数となった。

○コロナ時も続く職員の残業一職場訪問調査 倉敷市職労 景山書記次長

倉敷市職労ではこれまでも午後7時に各職場を訪問して残業している人の数を集計し

て、当局に残業削減、増員等を強く要求してきた。今年も職場訪問し、お菓子を渡しながら対話をしてきた。コロナ感染症対応で多くの職場で午後7時以降の残業者が増えておりその改善を強く求めてきている。

○県政みんなの会 共産党 須増県議

県は直前まで人口10万人当たりの感染者数が全国トップでその原因は、保育園、介護施設などのクラスター発生だった。ワクチン3回目については6か月での対応を県は準備中だ。県はPCR無料検査制度は作ったが対象が狭い。バス経営者に1台60万円、タクシーに5万円補助、売れ行きが急減したコメの販売補助、GOTOトラベル中止による宿泊業者への支援をしたが、キャンセル料補償はない。看護師4000円、介護職員9000円、保育士9000円の賃上げ補助金はするが、2から9月までで打ち切り。経済対策費として330億円国の予算が付いたが、その内166億円はコロナに関係のない公共事業費で、土建業に配慮している。国の補正予算も審議されているが、軍事費に7000億円以上、年度で6兆円を超え憲法違反の適地攻撃能力をもつものだ。